

55歳のつづき

在京飯田高校同窓会の幹事学年は55歳。社会人になったころ、55歳は定年を迎える年だった。今の時代、まだまだ世の中を引っ張っていかなくてはいけない世代の同窓生たちは、どんなことを考えているのだろうか。

高33回生 10人から

■飯田線

高校在学中までお世話になった飯田線。上京した時は新宿まで6時間の急行しかなかったが、中央道が出来、交通手段は車に変わった。もう飯田線を利用することは無いと思っていた。

ところが、数年前に豊川に転勤となり、飯田線を使うことになった。豊川と飯田は電車でつながっていた。飯田線で年に数回帰郷することになった。乗車してみると、利用者は鉄道マニアばかりで他の利用者は少ない。渋滞とは関係なく移動が出来、天竜川や山の景色もいい。飯田が近づくと風越山が見えてくる。春は新緑、梅や桜に藤の花、秋は紅葉、冬は雪景色と風情があり、なかなか味わい深い。さすが、秘境駅のテレビ番組には必ずと言っていいほど出てくる路線だ。

単身赴任が終わり、また東京に戻った。おそらくもう利用することは無いだろう。タイムスリップしたような夢のような時間だった。リニアが出来たらどうなるのか？

●園原勲 飯田市鼎出身 O A機器メーカー勤務

■55歳で思ふこと

《今まで生きてきて確信を得たこと》

1. 無意識が意識を司っていること
 2. 人は受精の瞬間に現世の運命が決まること
 3. 血液型診断はあながち間違っていないこと
 4. 野球部監督・小笠原健一先生が教えてくれた「以心伝心」は量子力学的に充分立証されること
- 《次にこれからやりたいこと》

1. 茶道・華道（DNAからくる憧れ）
2. 田舎の家の壊れた水車の再生（幼い頃の景色への想い）
3. 無農薬・無肥料農業、稲作（自給自足）
4. 地区全体の自家発電による自活（限界集落へのささやかな抵抗）
5. フランク・ロイド・ライトの落水荘のようで且つ超エコハウス（理想形）の設計及び施工（建築を志した理由）

最後は多くの友人を手料理で持て成すこと（誰かを幸せにしたいという願望）

惜しいかな、どう考えても時間が足りない。

●内山金実 喬木村出身 自営業

■55歳 まだまだ修行

私は今、クリエイティブ関連の制作ディレクションを行なう仕事をしながら、ジャズドラマーとしても活動しています。

ドラムを始めたのは中学生の時、高校時代はドラムを叩くために吹奏班に入りました。練習室で昼夜を問

■55歳を迎えて

故郷を後にして、18歳で上京して以来37年が経過した今、改めて月日の経つのは早いものだと感じます。子供たちも成人し、当時の自分のように親元を離れていく姿を見てなんとなく達成感を感じますが、そろそろ第二の人生のことを考えなくてはいけない現実と向き合う時期に来ていると思います。

楽しく元気に暮らしていくために自分が出来ることを考え、準備していくことが果たしてできるのかといった不安と、一方でもっと冒険してみたい気持ちとが入り混じっている感じです。時には、ふと故郷をなつかしく感じ、帰ることのできる場所を持っている安心感に浸ったり、今在京で家庭をもつてみるとなかなか帰れるところではないと思ってみたり、葛藤も感じています。もうせかされることは少なくなってきたので、ゆっくり考えてみたいと思います。

●清水敏英 飯田市中郷黒田出身 化学メーカー勤務

■日本酒が美味しい！

学生時代、飲み会が始まると30分以降はトイレにいたほどの自分が、この年になって、こんなに日本酒に「はまる」とは思わなかった。

会社に入ってから50歳を過ぎるまで、お酒といえば、最初はビール、それからは最後まで焼酎というのが自分のパターン。もともととお酒に弱いゆえに、営業の付き合いで飲

わずドラムばかり叩いていたのを覚えています。ジャズのバンドマンを目指し18歳の時に当時ナンバーワンドラマーだった故・日野元彦師匠の門下生になりました。あれから30数年。いろいろ紆余曲折はありましたが、もったいい演奏をしたい、もっとうまくなりたいたい、という高校時代からの想いはまだまだ変わっていません。週末を中心に年間のライブは60〜70本くらい。ここ数年は飯田でも年に4〜5回程度ライブをやらせていただいております。飯田・南信州でもジャズが盛り上がりつつあるといいなと思っています。

●宇井正直 飯田市大瀬木出身
制作ディレクター・ジャズドラマー

むことが多かったのです、お酒に魅力を感じることはほとんどなかったし、特に、くせを感じる日本酒には全く興味が湧かなかった。諸先輩からは、「日本酒は、年齢を重ねないとわからないんだよねー」なんて冷やかされていたけれど、まさかそんなことはないよなーとずっと思っていた。

今も仕事から平日は、ほとんど毎日お酒を飲むけれど、改めて、魚や野菜には日本酒がよく合うと感じる。これって年取っ

て、より日本人らしくなったってことかな（笑）。出張先や仕事の付き合いで名酒を飲むのもいいけれど、飯田名物の「塩いか」や「おたぐり」なんか食べながら、名酒「喜久水」を飲んで、郷里の友人と語らうのは最高！！

これからは、下腹や健康をちょっぴり気にしながら、こんな機会が増えていくことを楽しみにしている。

●辻広登 飯田市出身 橋梁メーカー勤務

■誰かの役に立つ。

それがこれからの人生のキーワード

人生100年と言われる時代になりました。そう考えると55歳はまだ半分を過ぎたところでしょうか。

先日、勤務先で「定年後の生き方を考える」というセミナーを受講しました。そこで講師から言われたのは、定年の60歳まで会社で仕事をした時間と、定年後から平均寿命の80歳まで自由に使える時間（睡眠や生活時間を抜いた時間）は、ほぼ同じだということ。つまり、60歳は折り返し地点で、人生の時間はまだ半分残っているということです。衝撃的でした。

また、幸せに生きるために必要なのは、お金、時間、健康だけではダメで、働くこと、それも誰かのために働くことが重要だそうです。定年後はのんびり好きな事をして…などと考えていましたが、それだけではもったいない。家族でも、友人でも、地域社会でも、世界の誰かでもいいので、微力でも誰かのためになることをしようと思いはじめました。

誰かの役に立つこと。これから何ができるか考えていきます。と思います。

●森（旧姓・藤本） 恵美子 飯田市出身 製薬会社勤務

■都道府県

魅力度ランキング最下位に住んで

縁あって、17年前に飯田より、茨城県つくば市へ移り住むことになりました。以前より茨城県とは多少の繋がりはあり、印象としては、「田舎」「さつまいも」「納豆」「だっぺ」「土浦ナンバー」のイメージで、現在の魅力度ランキングに沿ったものでした。

17年間、住んで感じることは、自然が多くて野菜が美味い、土地も広いし、ゴルフをやろうと思えば、近場で行ける、都内へも比較的容易に出られる等々、決して悪いところではありません。今までに付いたイメージと、これといって何も無いことが、最下位の理由かと想像します。

県はランクUPのために色々考えているようですが、どんなに頑張っても、1位にはなれませんが、中途半端な順位になるくらいなら最下位をキープして欲しいと思っています。

今年もランキングの発表が楽しみです。

ちなみに「茨城」は「いばらき」ではなく「いばらき」です。皆さん、「いばらき」へ遊びに来て下さい。

●高田晃宏 飯田市上郷出身 精密機器メーカー勤務

■遠距離介護を経験して思うこと

子育てが一段落した頃、それと入れ替わるかのように始まった介護帰省の日々。

一見元氣そうではあるけれど、高齢で様々な病気を患ってきた

母の介護を、どのような形で行うのが望ましいのか、ひとりっ子である私はいろいろと悩みました。その結果私が選んだのは、ケアマネージャーさん、ヘルパーさん、施設の職員さん、医療関係者の方、ご近所さん、親戚等に助けていただいていた遠距離介護でした。その方々は、母だけでなく私のことも何かと気遣ってくださり、本当にいつも感謝の気持ちでいっぱいになります。また、遠距離介護は帯同してくれる家族の協力も欠かせないものです。

今は月2回のペースで、神奈川から飯田に通っていて、限られた時間で用事を済ませ、各方面と連携を取り…:…:というのは大変な時もあるけれど、優しい飯田弁と、飯田の自然に癒されて元気をもらい、自宅に戻ります。

中央道を車で走りながら、「この中に私と同じように介護帰省の人達がいるんだろうなあ」と思いを巡らせ、その人達に心の中で勝手にエールを送りながら、ハンドルを握っています。

●波多野（旧姓・吉村） 幸子 秦阜村出身 非常勤職員

■大空と大地の中で、リフレッシュ！

先日、一人旅で北海道に行った。航空会社社のマイルの期限が迫っていると通知があり、週末に日帰りどこかに行ってみようというマイルの企画に申し込んだところ、行き先が帯広に決まった。とかち帯広空港に着くと天気は小雨、6月というのに気温は8℃。東京が蒸し暑かっただけにヒンヤリ

感が心地よかった。さて、どこに行こうかと考えた末、レンタカーで足寄に行くことにした。ここは松山千春の故郷だ。私は高校時代、よく自転車で「大空と大地の中で」を歌いながら通ったものだ。

話には聞いていたが、足寄はこれといった見どころもなく（笑）、昭和を感じる小さな町であったが、道の駅や町の食堂では地元の方々の温かい人柄に触れ、日頃は味

■ワークスタイルバランスを保つ

寄稿の依頼をいただき、我が身をちょっと振り返ってみましたが、会社員としての多忙な生活に追われてあつという間

に年を重ねてしまったなあというのが率直な感想です。「女だてらに」を自分への褒め言葉とし、男性先輩の真似をして率先して徹夜で仕事をしたり大酒を飲んだり、あまりスマートではない働き方をしました。2000年ミレニアムの晩に電気も供給され続け何事もなく稼動するシステムは愛しかったですし、2度の震災後の復興支援、大規模障害への対応など数々の厳しい経験もさせていただきました。

現在は3年前に始めたゴルフにのめりこんでおり、自分との戦いに邁進中です。ウエア選びも楽しいし、同行者の素の姿を見られることも楽しい。今更ながらワークスタイルバランスを保ちながら充実した週末を過ごし、更なるパワーアップを図ろうと思っています。

●有田（旧姓・熊谷） 朋子 飯田市出身 電気機器メーカー勤務

わえないゆっくりとした時間の流れを感じた。夕方、空港に戻り一人慰労会！思いがけず訪れた初めての土地であったが、大いにリフレッシュできた一日であった。

こんな一人旅ができるのも、家族をはじめ周りの人々のおかげであり、あらためて日頃の感謝とともにまた明日から頑張ろう！と思った次第である。

●川上勝浩 飯田市出身 製薬会社勤務